

令和元年度 学校評価（中間評価）

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善 ○保護者や関係機関との連携に基づく教育の充実 ○地域のセンター的機能の拡充</p>		
<p>項目 担当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>中間評価</p>
<p>総務</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員の分かりやすい駐車方法と駐車場の整備 行事における保護者の本校敷地内への駐車の実施と改善 	<ul style="list-style-type: none"> 年度始めに駐車方法のプリントを職員に配付し周知する。 定期的に全体又は個別に駐車の方法について説明する。 駐車場の白線引きと通用門付近の看板の整備をする。 行事ごとに駐車方法の案に沿って実施する。 反省を出してもらい、次の行事又は次年度に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度始めに職員向けに駐車方法について説明を行った。しかし、今年度途中から始まった工事の関係で、日替わりに近い駐車方法を職員にお願いしている状況である。 看板等の整備は順次行っている。 案のとおり実施し、反省を次年度に生かしていきたい。今年度、残る学校祭、授業参観・販売実習についても、臨機応変に対応していく。
<p>教務</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程に関する諸課題の検討 学習指導内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の実施に向けて、小学部・中学部では通常の学級の自立活動の時間における指導の試行を行い、指導体制や指導内容等の課題や問題点の洗い出しを行う。高等部においてもA類型の自立活動の時間における指導の検討を進める。 重複障害学級の教育課程について、各部署で児童生徒の実態に応じた教育課程を目指し、現行の教育課程の見直しや検討を進める。 昨年度に作成した「学習指導内容表」をさらに充実させ活用するために、指導内容の加筆や訂正、表の整理等を行う。学習指導内容表を基にして、年間指導計画モデル案の作成につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学部・中学部において自立活動の時間における指導の試行を行っている。年間指導計画の新様式の作成や流れ図を使用した指導目標、指導内容の設定の仕方を全校研究と合わせて行っている。高等部においても部内で自立活動の時間における指導の実施に向けて検討を進めている。 各部の重複障害学級の主任等と夏季休業中に検討会を開き、各部の現状と今後の方向性について話し合いを行った。今後も検討を重ね、来年度の方向性を示すようにする。 教科・領域会において新学習指導要領で示された育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき、各教科等の目標や内容を確認し、年間指導計画の新モデル案の作成を進めている。発達段階や系統性、連続性を考慮して学習指導内容の充実を図っていく。
<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全な通学環境の整備 防災体制の充実 いじめの防止 	<ul style="list-style-type: none"> S B6コースの安全管理、運行の適正化に努める。（緊急時の対応、経路・ダイヤの調整） 自力通学生の通学経路の把握と交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 マニュアル及び訓練により、災害時の職員の対応、役割を周知する。 防災物品、備蓄食糧の管理及び整備を進める。 地域住民の方に防災訓練を見ていただき、地域との連携を検討する。 職員会議でいじめ防止基本方針の共通理解を図る。学期ごとに各学年へ実態調査を行う。高等部生徒を対象にいじめに関連したアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域からの連絡情報に対し、コースやバス停の位置調整をして、安全対策、適正運行ができるよう進めている。来年度に向けてコース等の検討を進める。 定期的な登下校指導、自転車通学者に対して交通安全教室を実施した。今後も事故が無いよう交通安全指導を行っていく。 計画のとおり防災訓練を実施した。3学期も防災訓練等を実施し、防災意識を高め迅速に対応できるようにする。 防災物品や備蓄食糧の計画的な購入を進めていく。 1・2学期に地域住民の方に防災訓練を参観・参加していただいた。今後もこうした防災訓練を継続し、児童生徒の様子や学校施設について関心をもってもらう機会とする。 職員会議で、いじめ防止基本方針を伝え、いじめ根絶に努めた。 年2回、いじめに関連するアンケート調査を行い、実態把握に努め、アンケート内容によっては個別の相談を行う。
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> 組織的、系統的なキャリア教育の推進と充実 地域との連携と充実 職場開拓 	<ul style="list-style-type: none"> 進路講話会等の内容や開催方法等の再検討や試行を行う。 進路コーナーの内容を充実させる。 他分掌や関係諸機関との連携を強化する。 在学中の対象生徒に合った職域を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 講話会の内容を再検討し、小・中学部では、的を絞った福祉事業所の紹介を、高等部では保護者の疑問に答えたり現場実習の様子を動画で紹介したりするなどした。参加率に大きな変化はないが、今後も内容の充実を図りたい。 進路コーナーに加え、地区別の事業所マップを作成した。懇談会や大きな行事等で掲示し、保護者や職員への情報提供の強化を進めている。複数の関係機関より、生徒や職員への講話や勉強会の提案もいただいている。来年度に向けて検討を進める。 校内では支援会議への参加、校外では各市町村の関係者の協力の下、会議への参加、進路先の情報共有などを定期的に行ってきた。 職場開拓による協力企業が増え、体験実習や雇用の検討につなげられている。また、担当の分担により、高3を中心に、進路指導部以外の職員も、関係諸機関とのつながりが増えた。
<p>保健体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康教育の推進 安全教育の推進 安全環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 保健室経営の充実を図り、学校保健活動の中心的な役割を果たす。 緊急時対応訓練等を通して職員の安全意識を高め、児童生徒の健康の保持・増進を図る。 教育活動全体を通じた食育指導を実践し、望ましい食習慣の獲得を図る。 児童生徒の健康観察を実施するとともに保護者との連携を図りながら安全・安心な学校生活を送れるようにする。 個別の健康観察や校内一斉換気を実施することで感染症等に関する意識を高め予防に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康観察や、健康情報を共有することでスムーズな保健室経営が図れている。これからもしっかりと情報共有を行いたい。 生徒指導部と協力し、消火栓等活用訓練を実施することで職員が危機感をもって訓練に取り組めるようになってきた。 栄養教諭や生徒給食委員会から積極的に情報発信することで、少しずつ食育に関心が高まりつつある。引き続き努力していきたい。 環境整備を通じて、安全・安心な学校づくりを心掛け、日常の職員清掃時に除草作業ができるよう工夫していきたい。 体重測定を毎日実施して肥満指導を実施している。より効果が出るように指導を工夫したい。
<p>研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 現職研修の充実を図る。 全校研究の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期は保健に関する研修やソーシャルスキルなど、職員のニーズに応えた研修を計画し、おおむね好評であった。夏季休業中に行われる研修が多い、という印象をもつ職員がいるが、研修を受けて、知識を得る良い機会と捉え、有意義なものとしてもらいたい。 全校研究は部代表を中心として各部間で状況を確認しながら取り組んでいる。後期の個別の指導計画目標の設定と関連させ自立活動の流れ図作成に取り組んだが、その取組が大変だ、という印象に流れてしまい、全校研究の目的から逸れてしまっている。研究の目的を再度確認し、部代表や研究係を中心に、情報を共有しつつ、目的に向かって取り組んでいけるようにしたい。より密に周りの職員と連絡を取り合って今年度末の部内実施報告に向けて進めていきたい。

視聴覚	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器の有効利用を推進 ・図書室の円滑な運営及び、児童生徒の利用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚準備室や視聴覚機器を使いやすく整備する。 ・視聴覚機器の更新を進める。 ・閲覧スペースの環境整備を行う。 ・古い図書を廃棄して、新規購入を進め、新しい情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大音量CDデッキに代わるCD付きのアンブスピーカーを小学部に1台配備して使用している。使い勝手を確認し、今後追加購入を検討する。 ・東棟1階に大型テレビを配備して利用しやすくした。 ・読書月間において新刊コーナー、お薦め本コーナーを作り、盛り上げていきたい。 ・破損の激しい本や情報の古い本を廃棄し、新しい図書を受け入れる準備ができた。児童生徒が興味関心をもてる図書を検討し、購入準備をする。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の情報活用技能及びセキュリティ意識の向上 ・情報モラルの教育の充実 ・校内情報化推進のための情報管理及び活用に関する分掌間の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員用ノートパソコン（タブレット端末含む）の更新作業を滞りなく行えるよう準備をするとともに、その後の利用についての日常的なサポートを行う。教員のセキュリティ意識を高めるために、資料提供などの啓発に努める。 ・情報モラル教育について、担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして進めていく。 ・他分掌等と連携してタブレット端末活用の研究と有効利用を進めると共に、機器やネットワークの整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員用ノートパソコン（タブレット端末含む）の更新作業について、事前の情報収集や資料作成を行い、新規ノートパソコン等の配備を滞りなく行えた。 ・夏季休業中に、校内の情報機器活用講座を開催した。昨年と同様の人数の受講があった。引き続き、資料提供や日常的なサポートを行っていく。 ・情報モラルアンケートを、中学部と高等部の保護者及び高等部生徒に実施した。また、生徒指導部と連携して、携帯電話会社による生徒向けスマホ安全教室を実施した。卒業後の社会生活も見据えた支援ができるように、今後も生徒指導部や学年等と連携して、情報モラルに関する働き掛けを進めていく。
地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援の充実及びセンター的機能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内職員向けの研修や高等部生徒を対象に教育相談を実施することで、自校児童生徒への支援につながるようにする。 ・地域の小中学校教員等を対象に、特別支援教育に関する研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メソフィアや地域支援部だよりを活用し、特別支援教育に関する情報の発信を適時行っている。また、教育相談がうまく機能するように、必要に応じてスクールカウンセラー等の専門家と連携し、担任個人ではなく関係職員がチームで支援に当たる等、校内での意識付けを引き続き進めていく。 ・8月上旬に「特別支援学校の進路指導」に関する内容で研修会を実施した。本校校区の小・中学校教員や高等学校教員等50名が参加して、卒業生の進路先や進路決定に向けての取組など、本校の現状を基に講義と情報交換を行った。
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導支援の充実 ・教材・教具等の周知と有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導内容や支援の方法について、情報を収集、紹介することで、教職員の自立活動に対する意識を高める。 ・実態把握から目標や指導内容設定までの流れを提示し、指導計画の作成手順を共通理解できるようにする。 ・自立活動の教材・教具を研究、整理し、授業等で有効活用できるように紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動指導内容表「じかつ☆ノート」を作成し、自立活動の指導の手助けとなるようにした。今後も定期的に見直しを行っていく。 ・自立活動に関する勉強会「じかつ☆ラボ」を計画、実施した。10月までに5回開催し、各回30名ほどの職員が参加した。教材・教具、感覚統合、ICT、PECSについて知識を深めることができた。また、その内容を「じかつだより」に掲載し、全職員に配付することで情報を共有した。 ・現職研修で、自立活動の考え方や、「流れ図」を活用した実態把握から目標、指導内容設定までのプロセスについての周知を図った。 ・教材・教具展において、各部の自立活動の時間における指導の実践を紹介した。今後は掲示板等で情報発信をしていく。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の成長を長期的な視点に立って考え、自立活動のチェックリスト等を活用しながら児童の発達段階を捉え、個々の実態に応じて、日常生活で身に付けたい基本的な力の育成を図る。 ・安全な生活環境の整備や個々の実態に応じた支援を充実させることで、けがや事故等のない安全で健康な生活を送れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の様々な場面で個に合わせた指導を進めている。特に、次年度の自立活動の時間における指導の実施を踏まえ、日常生活の指導の時間等を活用し、一学期は児童の実態把握の期間として、目標や指導内容の設定を全校研究の取組（自立活動のチェックリスト等の活用）と合わせて行った。また二学期からは具体的な実践を始め、日常生活動作やコミュニケーション力の向上等を目標にして個々に応じた課題に取り組んでいる。三学期には、二学期の取組を検証し改善を図りながら支援を進める。 ・部会や学年会等で児童の体や心の健康状態への留意事項を共有することで児童の安全な生活の支援を行った。情報共有により、登校時の健康状態についてより留意して確認し、家庭に確実な情報を提供できるように意識している。今後、部全体での情報の共有を図る意識をより高めていく。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と感じられる授業作り ・基本的な生活習慣の育成及び社会生活を営む上で必要な基礎的な能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の特性に応じた補助具を開発したり環境を整えたりして、生徒自身が課題を理解し、落ち着いて授業や取り組めるようにする。 ・食事、睡眠、排せつ、挨拶、衣服の着脱、身だしなみ、ルールや約束事の意識、相手を思いやる気持ちなど、基本的な生活習慣の育成を家庭と連携を密に図り、学校生活全般を通して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な授業場面においてICT機器や写真・イラストを積極的に使い、「分かりやすさ」に配慮した学習を展開している。さらに、生徒自身が主体的に授業に参加できるように工夫していく。 ・日常生活の指導及び1限後半の生活単元学習の時間を有効に使うことで、生徒に個々の課題に積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。また、集団におけるルールや約束事を意識した学校生活を送る生徒の姿が、年度当初よりも多くなっている。 ・連絡帳や個人懇談等を通して家庭との連携を図り、生徒の実態、支援方法などの情報を共有し基本的な生活習慣の育成・定着を図っている。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加のための力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見据え、自立活動の視点で生徒一人一人の適性にあった指導を行う。 ・学校生活の様々な行事などを通して、基本的な生活習慣の確立など、社会生活を営む上で必要な力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新設した教育課程での学習が3年目になり、B類型で学習をする生徒にとって必要な学習環境となっている。特に、視覚教材等を使用することにより、学習内容等を理解しやすい環境があることで落ち着いて学校生活を送れていると感じる。A類型で学習をする生徒については障害受容や自己理解の観点を大切にしながら、自分ができることを増やす努力をするとともに、自己の課題を認識し、できないことについては自ら支援を求められる力を身に付けてほしい。引き続き、学校生活や行事等で自分で考える機会を多く設定し、社会自立に向けて自己判断、自己決定、自己選択ができる力を身に付けてほしい。 ・日常の学校生活や行事等を通して挨拶・返事・報告をはじめとする働く上で必要となる態度が定着しつつあるが、特定の相手や場所でのみしかできない場合があるため、今後はどのような環境でも身に付けた力を発揮できるような支援・指導を工夫していく。
学校関係者評価を実施する主な項目	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔のある安全・安心な学校づくり（快適な学習環境、防災体制の確立等） ・12年間を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進（自立活動のチェックリストの作成と活用、年間指導計画モデル案の見直し・作成等） 		

【学校関係者評価を実施する主な項目に対する中間評価について】

項目	中間評価について
笑顔のある安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが笑顔で安心して学べる学校になるように、人権についての学習会や「不適切な指導とは」といった内容の職員会議や職員研修を行った。全校で人権を尊重し、児童生徒に寄り添った支援や指導について共通理解を図った。また、全職員対応にセルフチェックアンケートを行い、職員一人一人が自分の行動を振り返って反省する機会とした。新たな取組として、11月には保護者からの意見をうかがう機会となる、学校評価アンケートを全校保護者対象に行っており、安心・安全な学校づくりに生かしていく。 ・生徒指導部、地域、PTAが連携して、防災に関する訓練や研修を行った。地域との連携では、1学期は地域の方に防災訓練を見学していただいた。2学期は地域の民生委員の方に防災訓練に参加していただき、一緒に避難をするという体験をしていただいた。PTAとの連携では、2学期に地区別勉強会で防災について取り上げた。12月には避難所体験を計画している。今後は、地域、PTA、学校の3者が連携して、一緒に活動できる機会を設けていくための準備にとりかかりたい。
12年間を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進（自立活動のチェックリストの作成と活用、年間指導計画モデル案の見直し・作成）	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究で「自立活動のチェックリストの作成と活用」について取り組んでいる。小学部と中学部では、来年度の自立活動の時間における指導の実施にむけて試行を行っている。その中でチェックリストを活用した自立活動の目標設定など、対象児童生徒を決めて検証を行っている。また高等部では、就職を目指す生徒対象のチェックリストの作成に取り組んでいる。今後、小学部、中学部では来年度以降の自立活動の時間における指導の実施に向けて、指導内容等についても検討を行い、スムーズな完全実施ができるように準備を行っていききたい。高等部については、一人一人の生徒の目標を的確に決めるためのツールとして機能するように、今後は活用、検証に力を入れていききたい。 ・新学習指導要領の実施に向けて、それぞれの部で年間計画のモデル案の見直しを行った。新しく教科として取り上げた「道徳」や高等部の「総合的な探究の時間」などのモデル案の作成を行った。また、重複障害学級の教育課程の見直しも行い、学校としての教育課程の在り方について確認を行っている最中である。今後も、新学習指導要領の内容を本校の児童生徒に応じた無理のない形で、日々の学習に取り入れていくための枠組み作りを進めていききたい。